

JAにいがた南蒲

これまでの実践内容と成果

1. 農業者の所得増大と農業生産の拡大に向けた取り組み

○ 営農指導の充実による「なんかん米」の品質向上

作期別集合研修会や地域別指導会は開催数を増やし、県内トップの品質と安定収量の確保に努めました。(研修会・現地指導会の実施回数：220回)

1等米比率状況(12月末現在)

項目	品種	H28	H29
なんかん米	コシヒカリ	70.9%	94.7%
	こしいぶき	92.9%	97.1%
新潟県	コシヒカリ	83.1%	83.3%
	こしいぶき	86.9%	85.4%

○ 園芸生産の拡大

「園芸産地づくり推進助成」による園芸用機械の導入、園芸施設整備、種苗費、面積拡大への助成などを実施しました。

項目	成果 (29年度増加面積)	助成額(千円)
ハウス利用による園芸導入	50.9a	1,215
露地作型による園芸導入	304.0a	1,501
計	354.9a	2,716

重点品目の出荷拡大に向け、出荷量が前年実績を上回る経営体へ出荷奨励を実施しました。

【重点8品目：たまねぎ・養液土耕栽培・ねぎ・アスパカス・にら・枝豆・ブロッコリー・里芋】

出荷量：t、金額：千円

該当者	28年度		29年度		増減	
	出荷量	販売金額	出荷量	販売金額	出荷量	販売金額
66経営体	42.0	15,677	60.2	22,766	+18.2	+7,089

○ 低コスト資材の普及・拡大によるコスト低減

水稻の県下統一肥料や大型規格農薬の普及・拡大に取組みコスト削減に努めました。

低コスト肥料の供給 28年度：226トン ⇒ 29年度：284トン(コスト10~20%↓)

大型規格農薬の供給 28年度：4,241ha ⇒ 29年度：4,587ha(コスト3~11%↓)

2. 地域の活性化に向けた取り組み

○ 直売所を拠点としたイベントの実施

「ただいまーと」で季節の野菜、果物を使った料理教室などの実施により、地域活性化の拠点として好評を得ています。

イベント実施数 28年度：145回 ⇒ 29年度：458回

○ 生産者と消費者の交流の場づくり

農産物直売所「ただいまーと」への出荷登録を推進し、農産物の委託販売品比率の向上につながりました。また、出荷者と消費者が集い楽しむ地産地消の交流の場として、安全・安心・新鮮な農産物の供給に努めました。

	28年度 (H28.7~H29.1 末)	29年度 (H29.2~H30.1 末)
直売所出荷登録者	227名	266名
店舗全体取扱販売高	2億 900万円	4億 3,308万円
出荷登録者販売高	1億 5,440万円	2億 8,629万円
内、農産物	6,800万円	1億 3,853万円
比率	44.0%	48.3%

自己改革完遂に向けた取り組み

○自己改革について、十分な結果がのこせるように、私たちは、「自己改革工程表」を策定し、その具体策を各事業年度の計画に盛り込んで進めております。

まだまだ、組合員の皆さんの期待・要望に、十分応えきれていない部分は多いと思いますが、これからも組合員の皆さんの声を聞き、真剣に議論して確かな方向性を見出す協同組合としての自己改革を進めていきます。

大規模農家・生産組織との意見交換会 平成28年度1回 ⇒ 平成29年度：2回
自己改革に関する独自映像の作成による情報発信

⇒ (組合員代表者研修、青年部・女性部総会)



